18/8 2019 News Letter No.77 Japan Music Education Society

日本音楽教育学会ニュースレター 第77号

目　　次

1　学会からのお知らせ

1. 日本音楽教育学会第50回大会（東京大会）のご案内 ..... 佐野　靖　2
2. 会長・理事選挙結果報告 ..... 水﨑　誠　4

2　委員会からのお知らせ

1. 編集委員会からのお知らせ ..... 水戸　博道　5
2. 日本音楽教育学会設立50周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』刊行について ..... 加藤富美子　5

3　音楽教育の窓

1. 〈連載〉音楽・教育・学校（20）
   教え込まれたものとは違う、内発的で清らかな歌声を ..... 佐橋　晋　6
2. 第12回APSMER（マカオ）大会報告 ..... 今　由佳里　8
3. 第12回APSMER：マカオから東京へ！ ..... 水戸　博道　9
4. 日本カリキュラム学会第30回大会参加報告 ..... 小山　英恵　9
5. 音楽教育と音楽表現
   —日本音楽表現学会第17回（かきつばた）大会報告— ..... 深井　尚子　10
6. 日本赤ちゃん学会第19回学術集会参加報告 ..... 坂井　康子　10
7. Society for Education, Music and Psychology（SEMPRE）秋季学会案内 ..... 奥　忍　11

4　会員の声

1. スクーリングで音楽好きの教員を輩出したい ..... 高見　仁志　12
2. 音楽教育に即興を取り入れたい ..... 遠藤　尚美　13
3. 日本音楽教育学会入会に際して ..... 伊東　陽　13
4. 会員の新刊・近刊等紹介 14

5　報告

1. 2019年度第2回常任理事会報告について 15

6　事務局より 16

［編集後記］

1　学会からのお知らせ

① 日本音楽教育学会 第 50 回大会のご案内（第 2 報）

大会実行委員会委員長　　佐野　靖

学会設立 50 周年を迎え，大きな節目となる第 50 回大会は，10 月 19 日（土）･20 日（日）の 2 日間，東京藝術大学で開催いたします。

口頭発表が 105，ポスター発表が 71，共同企画が 13，加えて実行委員会企画のシンポジウム，常任理事会企画のプロジェクト研究，院生フォーラムと盛りだくさんの内容となっております。詳細は，大会プログラムをご覧ください。

以下，大会の日程表，シンポジウムやプロジェクト研究，院生フォーラムの概要についてお知らせいたします。実行委員会一同，皆様のお越しを心よりお待ちしております。

【日程表】

10 月 19 日（土）							
9:00　9:30　12:00		13:15　14:55		15:10　16:55	17:00	18:00	20:00
受付・打合せ	**口頭発表** A (5-109)　B (5-401) C (5-406)　D (5-407) E (5-408)　F (5-409) G (5-410)　H (5-301) I (5-213)　J (5-212) 10:30　11:45 **ポスター発表** U/V（第 I ホール）	**昼休憩** 12:50-13:05 **ギャラリートーク** (2-1-1)	**実行委員会企画** **ご挨拶** **シンポジウム** (5-109) 大学史史料室　特別公開	休憩	**常任理事会企画** **プロジェクト研究** （第 6 ホール）	**総会等** **(学会賞授与式)** (5-109)	**情報交換会** （キャッスル）

10 月 20 日（日）						
8:30　9:00　12:00		13:15　14:45		15:00　16:30		
受付・打合せ	**口頭発表** K (5-109)　L (5-401) M (5-406)　N (5-407) O (5-408)　P (5-409) Q (5-410)　R (5-301) S (5-213)　T (5-212) 10:30　11:45 **ポスター発表** W / X（第 I ホール）	**昼休憩** 12:50-13:05 ギャラリートーク (2-1-1) 12:00　13:30 **院生フォーラム** (5-311)	**共同企画** I (5-401) II (5-408) III (5-409) IV (5-301) V (5-212) VI (5-213) 料室　特別公開	休憩	**共同企画** VII (5-401) VIII (5-408) IX (5-409) X (5-301) XI (5-311) XII (5-212) XIII (5-213)	

【シンポジウム】（実行委員会企画）

音楽教育学を展望する──隣接諸科学からの期待──

大会実行委員会企画として，下記の 3 名の研究者をお迎えし，シンポジウムを開催します。専門的な見地から様々なご意見，ご指摘をいただくとともに，分野・領域をこえて忌憚のない意見交換を行い，これからの音楽教育研究の在り方を多様な方向から探り考えるシンポジウムにしたいと思います。

〈シンポジスト〉
・海部陽介氏（人類進化学，国立科学博物館）
　ホモ・サピエンス史における音楽の起源と変容―音楽教育についての人類学的一考察―
・岡田猛氏（心理学，東京大学）
　アート・ベースド・エデュケーションとしての音楽教育のあり方について
・古屋晋一氏（音楽医科学，ソニーコンピュータサイエンス研究所）
　音楽教育における身体教育―文化の持続可能性の基盤として―

【プロジェクト研究】（常任理事会企画）

学校と社会を結ぶ音楽教育Ⅲ
―さまざまな文化にもとづいた音楽活動を教室に！―

常任理事／プロジェクト研究企画担当　坪能　由紀子

常任理事会企画のプロジェクト研究「学校と社会を結ぶ音楽教育」は今年度３年目に入り，今回は学会 50 周年を記念して，ワシントン大学教授で民族音楽学・音楽教育学を専門とする Patricia Shehan Campbell 氏を，基調講演者として招聘しています。

大会当日は，昨年度のこの企画で坪能が提案した TAS モデルをもとに，T（Teacher）として桐蔭学園の岩井智弘氏が, 学園小学部の子どもたち（５年生）と実際に会場で授業を行います。また, A（Adviser）とて Campbell 氏と名古屋短期大学の高須裕美氏が，いくつかの文化の音楽の教材化や授業の進め方について，授業者と協議を重ねてきています。それに加え S（Supporter）としては，当日は２カ国からの留学生たちが自分たちの国の音楽を子どもたちに紹介し，共有する予定です。

世界の音楽を子どもたちが体験する上で，また広い音楽的展望をもつ上で，TAS モデルの意味が明らかになることを願っています。

基調講演（Adviser）：	Patricia Shehan Campbell
授業者（Teacher）：	岩井　智宏（桐蔭学園小学部）
Adviser：	高須　裕美（名古屋短期大学）
Supporter：	開智国際大学学生
コーディネーター：	今田　匡彦（弘前大学）
	田中多佳子（京都教育大学）
企画・司会進行：	坪能由紀子（開智国際大学）

【院生フォーラム】

５つのフィールドから音楽教育を考える―学生による研究活動の発展を目指して―

昨年度の岡山大会に引き続き，音楽教育を研究する院生同士のアカデミックな交流の場になることを願って，公開のグループディスカッションを行います。

予定しているグループ構成は，以下の５つのフィールドです。当日の参加者の状況により，グループ構成を柔軟に組み替えることを前提としています。多様な立場の大学院生が，自身の研究内容や興味関心のあるテーマごとに分かれて，研究の方向性や可能性について意見交換を行い，それぞれが抱えている現実的な課題や将来に対する不安，そして期待などを共有し，課題の再確認や解決策の発見を目指す機会にしたいと思います。

グループＡ：学校教育　グループＢ：専門教育　グループＣ：幼児教育　グループＤ：生涯教育　グループＥ：海外教育

事前申込：https://forms.gle/x9RnCqjQ4Tep8doeA をご覧ください。

② 会長・理事選挙結果報告

選挙管理委員長　水﨑　誠

「第 24 期日本音楽教育学会会長・理事選挙」は，会則，細則，選挙管理委員会規定，会長・理事選挙実施要領に則って 2019 年 6 月 16 日～7 月 1 日の日程で実施され，7 月 7 日に開票されました。

第 24 期日本音楽教育学会会長選挙の結果を下記の通り報告いたします。

得票数と次点者名は削除しています。

記

有権者数：1,447

当選者（得票数）	次点者（得票数）	投票総数（票）	投票率（%）
今川　恭子		336	23.2%

投票総数 336 票（内　白票 7／無効 1）

日本音楽教育学会選挙管理委員会

委員長　水﨑　　誠
副委員長　味府　美香
委員　中里　南子
〃　髙木夏奈子
〃　長谷川恭子

第 24 期日本音楽教育学会理事選挙の結果を下記の通り報告いたします。

次点者名は削除しています。

記

有権者数：1,447

地　区	当選者		次点者	投票総数／有権者数	投票率 (%)
北海道	尾藤　弥生			15/50	30.0%
東　北	小畑　千尋			26/87	29.9%
関　東	中嶋　俊夫 加藤 富美子 嶋田　由美 石上　則子 津田　正之	本多 佐保美 木村　充子 水戸　博道 佐野　靖		123/617	19.9%
北　陸	齊藤　忠彦			18/71	25.4%
東　海	新山王 政和	国府　華子		40/137	29.2%
近　畿	杉江　淑子 村尾　忠廣	笹野 恵理子		45/194	23.2%
中国四国	小川　容子	三村　真弓		47/183	25.7%
九　州	日吉　武			22/108	20.4%

投票総数　336 票　（内　白票　12／無効　0）

全体の投票率　23.2%

日本音楽教育学会選挙管理委員会

委員長　水﨑　　誠
副委員長　味府　美香
委員　中里　南子
〃　髙木夏奈子
〃　長谷川恭子

上記の結果をもちまして，第 24 期会長・理事選挙が滞りなく実施されましたことをご報告いたします。会員の皆様にはご理解とご協力をいただき，心より感謝申し上げます。

2　委員会からのお知らせ

① 編集委員会からのお知らせ

編集委員長　水戸　博道

令和元年第１回編集委員会（５月 18 日開催）では，投稿原稿の採否について審議を行い，次の通り決定しました。『音楽教育学』に投稿され，再査読となっていた研究論文３本のうち，２本が採択，１本が不採択となりました。また，再査読となっていた研究報告１本が採択となりました。新規投稿の研究論文３本 については，１本が採択，１本が再査読，そして，１本が不採択となりました。『音楽教育実践ジャーナル』へは，特集に４本，自由投稿に７本の投稿があり，特集は４本が採択，自由投稿は３本が採択されました。

『音楽教育実践ジャーナル』通巻 31 号 (2020 年 12 月発行) の特集テーマ
次号の特集テーマは,「即興を考える」となりました。多くの原稿の応募をお待ちしております。また，テーマにかかわらず，自由投稿も歓迎いたします。締め切りは 2020 年２月 15 日となります。
次 回『音楽教育学』投稿締切
『音楽教育学』の直近の締め切りは 11 月 15 日となっております，できるだけ多くの方の投稿をお待ちしております（2020 年８月発行の『音楽教育学』50-1 号への掲載をめざします)。

② 日本音楽教育学会設立 50 周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』刊行について

設立 50 周年記念出版編集委員長　加藤　富美子

設立 50 周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』が，音楽之友社より本年９月に刊行の運びとなりました。項目数 109 項目，執筆者総数 112 名，総ページ数 248p，本体価格 2,700 円です。「ハンドブック」として，音楽楽教育研究に携わるすべての方々にとって，その指針を探すための書が誕生したことを心から嬉しく思います。

会員のみなさまをはじめ，さまざまな場で音楽教育を実践し，研究しようとする方々にとって，これからの音楽教育研究に生かしていただけることを願っております。

内容の詳細については，学会 HP をご覧ください。また，第 50 回大会を記念して，期間限定・事前申込での特別価格販売を予定しております。同封のチラシでご確認の上，ぜひお申込みください。

3　音楽教育の窓

〈連載〉音楽・教育・学校（20）

1　教え込まれたものとは違う、内発的で清らかな歌声を

佐橋　晋（日本福祉大学名誉教授）

「お前ら皆，公務執行妨害で逮捕されるぞ」京都市立堀川高校正門に向かう我々教員に市教委労務対策係が大声を上げてぶつかってきた。生れて初めて聞く「タイホ」。一瞬たじろく我々に「公務執行妨害はどっちだ。正常授業を妨害してテストを強行するあんた達じゃないか」と佐藤京都市高教組委員長。この「公務」が後に問われる。

1961 年 10 月 24 日，それまで中・高校の抽出での学力テストに代え，文部省は中学校のみ全国一斉の学力調査（以下「学テ」）を実施した。それまで文部省は，日本教職員組合（以下日教組）からの学力調査の問題，教育課程等の文教政策，勤務評定等についての繰り返しての意見具申には全く答えないまま，「学テ」を強行し，教職員，中・高生の反対行動を誘発した。

冒頭の堀川高校では生徒諸君の拒否態勢が整っていたため我々の抗議活動は十数分間フラッシュを浴びた後中止となった。「処分の申請はするな」とのその場での交渉に「しません。だって何もなかったんですから」と即答した米田貞一郎校長。彼の英断で，処分は市教委が目指した公務執行妨害はおろか，建造物侵入にも問えず，写真撮影から割出した職場離脱を理由の賃金カットに終わった。

逮捕はしかし京都市でも現実に行われ，後の報道では S 中学校生徒にまで及んだ。京都地裁中庭では，詰めかけた多数の教職員が激励の言葉を投げかける中，勾留理由開示公判へ両手錠腰縄付の姿で毅然と歩む組合幹部達。ショックだった。政府の方針に反対を呼び掛けただけで何故極悪犯人の扱いなのか。戦前の治安維持法そのままではないか。手錠姿を人前に晒すことも禁止の筈。TV でも出ることはない。批判を意識してか，後年，日教組委員長槇枝元文逮捕の当日，警視庁は特別のもてなし（入浴・食事特注等）を行った。

間もなく「『学テ』が，反対者を逮捕してまで行うに値する『公務』なのか」が裁判で問われる。旭川地裁の「『学テ』は『違法な公務』」を皮切りに全国各地の高裁レベルにおいても「文部省の『学テ』違法，日教組の『学テ』反対無罪」との判決が続出，1964 年に遂に文部省は「学テ」を中止した。最高裁は高裁判決を破棄，判断を逆転，学テ合法，反対違法とする。一方で，「成績競争の風潮を生み，教育上必ずしも好ましくない状況をもたらし，また，教師の真に自由で創造的な教育活動を委縮させるおそれ・・・，教育政策上果たして適当な措置であるかどうか問題」と指摘した。この最後のくだりは当時の教員社会で人口に膾炙（かいしゃ）すると言ってよい勢いで広まった。教育基本法を改正，文科省の権力を強くした政府は「学テ」で得られた貴重な教訓を無視し，2007 年悉皆テストを再開した。成績公表については批判を受入れ抑制的であるのがせめてもの救いである。愛知県犬山市のみが市教委の見識でテストを返上した。

因みに日本の教育状況について「極度に競争主義的な性格が，いじめ，精神障害，不登校、中退，自殺の原因となっている」と国連子どもの権利委員会は 1998 年第一回所見以来，繰返し日本政府に勧告し続けている。

同じ頃やや遅れて「ふしづくり一本道」と名づける教育で日本全国の音楽教員の注目を集めた山本弘が退職後，文部省学習指導要領作成委員に対して「小学校学習指導要領音楽編への意見具申」を，次いで「指導要領作成協力委員からの返事がないので世論に訴える檄文」を公表した。折角の山本の訴えに文部省側が対応することはなかった。文部省は自らの施策はお上の威厳を傘に法を軽視しても強引に進め，民間の優れた提案には返答すらしない。国際社会からも批判が続く状況は許されない。本来，行政をチェックす

べき立法府（国会）が機能を果たすべきではあるが，民間の我々も個々の具体策については自ら積極的に提案・実行を心がけるべきで，実際，大きな成果もあげてきた。

専門コースではない一般学校での音楽科教育は技術練磨は手段であり目的ではない。「風と川と子どもの歌」に関する「精薄児の雑唱 or 健康児の歌唱」についての中田喜直対丸岡秀子の論争は改めてこのことを提示した（『音楽学』1987, pp.32-3）。

「ふしづくり」はどの子も落ちこぼさず，というより，授業を子どもが主導できるまでに，遊びの中で無理なく，自然に音楽の基礎が体得できるシステム。教え込まれたものとは違う，子ども自身の共同作業から生まれた作品の質の高さ，内発的な清らかな歌声は毎年の参観者の胸を打ち「この灯をどうか消さないで」と校長中家一郎の手を握る場面がしばしばあったという（「ふしづくり一本道」（古川小学校）の歴史的意義『戦後音楽教育 60 年』2006, pp.277-288）。幸い教育芸術社が 2011 年度用教科書から「秋子ちゃん，はーい」の 2 小節単位のリレーを取入れ，日本語のリズムと音程を自然に意識させ，学習指導要領で示された「階名での模唱・暗唱」の活性化にも繋がると期待できる。

日教組教研集会から出発した「音楽教育の会」は林光・ 丸山亜季の支援も得て「子どもが主人公・子どもが生きる」歌声を具体的に提示し続けてきた（大阪音楽教育の会：『音楽の授業を創る』一ッ橋書房，1982）。前記二つの実践はいずれも中田・丸山論争を克服したと判断できる。肝心なのは，これらのシステム，「音楽づくり」「掛け合い歌」等を含めて，システムに値する歌声が確かに響いているか，それを聞き分ける耳である。私自身，「大阪音楽教育の会」が提示した子どもの歌声を了解するのに 1 年有余かかった。林光でさえ, 丸山亜季の楽譜を「あちこち何だか変」と判断, しかし子ども達の歌声を聴いて了解した。

1980 年代以降，講義中の私語など学生のマナーが全国の大学で問題となる。私自身旧知の学生から「学生の私語をゼッタイ許すな。あまりうるさいので私は後ろからチョークをなげつけてやったこともある」と忠告を受けた。「講義内容を分かりやすく魅力的に」尤もな意見だが，数十人ならともかく，数百人の誰にでも・・は無理。「学生同士の討論を取入れる」尤もな意見だがそれで済ますなら教師は不要。私は講義開始・終了時刻厳守（在籍した日本福祉大学では非常勤講師にも呼び掛けて実行），私語即退場を実行。後に講義退屈時も退場可とした。

マナーは学生にだけでなく，教員にも問われる。中学校勤務時，父母役員による卒業学年担任への料亭での接待の辞退を提案。父母は提案を受け入れ接待を中止，低廉な会費で父母全員自由参加の喫茶店での謝恩会とした。高校勤務時，組合役員が一部有志に偏っていたのを，学科単位で候補者を出し，選挙で役員を決め，全員が組合活動に関心を持ち時局に向き合えるよう半年間の討議の末決定した。

組合活動と並んで，京都市内高校音楽科担当教員の研究会で研究会初の授業公開を実施した。その際のベートーヴェンの「交響曲第 7 番」第 2 楽章をテーマにした授業内容に加え，教科書での音楽史の取り扱い方について，当時の西独と日本を比較する小論が音楽之友社の小さな賞を獲得した。

時局に向き合う授業を中高教員時代には教科書教材以外で行った。ベトナム反戦の先頭に立つ歌手ベラフォンテ, 彼の気迫の籠る「Danny Boy」を聴く。そして, 当時ヨハネス 23 世がカトリックの世界に籠らず, 米・露を仲介，世界戦争の危機を回避したこと。シェーンベルクの「ワルソーからの生き残り」では事前に歌詞配布。高校生に充分理解可能な英語，僅かな独語は当日直訳。一番人気を集めた曲であった。保育者養成課程（日福大）では谷川俊太郎詩・武満徹曲「死んだ男の残したものは」を取り上げた。「捩じれた脚　歪んだ地球」には抵抗もあり，「輝く今日とまた来る明日」を示しても授業では納得は得られなかったが，卒業後に「あの曲に出合っていてよかった」という感想も聞いている。

② 第 12 回 APSMER（マカオ）大会報告

今　由佳里（鹿児島大学）

2019 年 7 月 15 日～ 18 日，マカオ中心地に近い Macao Polytechnic Institute を会場にして，12th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research が開催された。鹿児島から香港経由でマカオへ入国したが，香港からマカオへは飛行機の到着時間の都合でフェリーではなくバスを利用し，昨年秋に開通したばかりの全長 55km からなる世界最長の海上橋をわたり移動した。この港珠澳大橋を利用することによって，鹿児島出発から 6 時間後には滞在ホテルに到着できたので，遠い異国と思っていたマカオが意外に近いことに驚きを感じた。

大会では，基調講演や口頭発表，パネルディスカッション，ワークショップ，ポスター発表，院生フォーラム等のプログラムが並び，160 を超えるタイトルが見られた。音楽教育の普遍的な課題から，自国の音楽教育の内容に至るまで，様々なテーマで活発な議論が交わされた。APSMER では，コンサートも楽しみの一つであるが，今年はマカオを拠点として活動する女性アカペラグループ Water Singers の演奏を楽しむことができた。偶然にも，コンサート終了後に彼女らと話す機会を得ることができた。前衛的なパフォーマンスが魅力である彼女たちは，来年は日本での公演が決定しており，訪問を楽しみにしていると気さくに話してくれた。

開催国ということもあり，今年は中国の若手研究者の発表が多かったように感じる。次回 2021 年はいよいよ東京大会，日本人大学院生等若手の研究者は，早い時期から国際学会での発表を経験することとなるのではないかと，期待が高まっている。

【写真 第 12 回 APSMER 開会式】　（撮影　今由佳里）

③ 第 12 回 APSMER：マカオから東京へ！

水戸　博道（明治学院大学）

第 12 回 APSMER は 2019 年 7 月 15 日から 18 日まで中国マカオにて開催された。今回はマカオ工芸大がホスト校となり，会場はカジノが乱立する市内ど真ん中のキャンパスで行われた。今回は APSMER 史上最高の 310 件ものアブストラクト応募があったのだが，マカオ工芸大のキャパシティの問題から採択数をかなり絞り，最終的な発表数はポスターも含めて 163 件であり，採択率が約 50 パーセントという狭き門となった。

今回の会議の大きな特徴の一つは，最終日のクロージング・セッションで Chair の Bo-Wah 氏が強調したように，発表のレベルがあがったことと，若手の発表者が増えたことである。私自身も，今回の大会では，発表やディスカッションの双方において，若手がきわめて強い存在感を放っていたことに強く印象づけられた。これは，日本からの若手も同じで，音楽教育研究をリードしていく鋭い視点をもった研究や発言が多くみられたのは大変うれしいことであった。

次回大会は 20 年ぶりに日本で開催予定である。クロージング・セッションで東京大会がアナウンスされた後，多くの参加者から楽しみにしているとの激励の言葉をいただいた。最近の APSMER は，コンサートや市内観光など，研究以外の側面に力を入れる傾向があるが，東京大会は原点にもどり，より学術的な充実を目指した大会としたいものである。

④ 日本カリキュラム学会第 30 回大会参加報告

小山　英恵（東京学芸大学）

2019 年 6 月 22-23 日に，京都大学吉田キャンパスにおいて日本カリキュラム学会第 30 回大会が行われた。大会初日は，会場となった校舎の前に立ち並ぶ木々の淡い緑にやわらかな陽がさし，とてもさわやかな朝であった。参加者の数は大会史上最高レベルに達したとのことである。

プログラムでは，シンポジウムや課題研究も含め，コンピテンシー・ベイス，高次の能力の育成，カリキュラム・マネジメント，教科横断といった 2017・2018 年改訂の学習指導要領の方針に関係するキーワードが際立った。また，参加した課題研究の一つにおいては，「考えること」をテーマとして，国際バカロレア等のグローバル時代を反映する教育に関しても議論が行われた。このようなカリキュラム研究の世界的動向や教育課程全体の議論を受けて音楽教育研究は何を発信していけるのか，課題として持ち帰った。

緻密な議論に頭を働かせつつ迎えた大会二日目の課題研究で，旅のつかれを吹き飛ばし，一気にハートを惹きつけたのは，「きのくに子どもの村学園」において，「プロジェクト」が楽しみで学校に通ってくる子どもたちの多くの写真であった。学ぶことが楽しく夢中になっている子どもたちの姿はきらきらとして美しい。音楽教育研究の成果は，子どもたちの生き生きとした音楽の営みをもたらすことにつながっているだろうか，改めて考える機会を得た。

5 音楽教育と音楽表現―日本音楽表現学会第 17 回（かきつばた）大会報告―

深井　尚子（北海道教育大学）

6 月 15-16 日に愛知教育大学で第 17 回日本音楽表現学会全国大会が開催されました。この学会は文献研究中心の学会とは異なり，演奏実践から見出された「問い」についての発表が多く，毎年，多彩なテーマによる発表を聞くことができます。そのため演奏するだけの視点では思いつかなかった新しい発見があります。また，アウトリーチの報告や地域とのつながりについてなど，教育的な視点からの研究も多く発表されますので，教育現場と演奏実践の融合についても新しい知識を得られます。私は，この学会において研究テーマであるベートーヴェンのピアノ作品やピアノ演奏法について継続的に研究発表をしています。

私は，小・中・高校での音楽教育と音楽専門教育には強い関連があると考えています。小・中・高等学校の音楽の教師となる場合，大学での高度な演奏実践によって「音楽」の表現法が身についていると，どのような授業内容にも応用できるのではないでしょうか。音楽表現は，それを聴く聴衆がいなければ意味がありません。そのためにも，よい聴衆を育てることが必要で，その基礎は，学校教育にあると思います。音楽に特段興味がない児童生徒でも，「音楽の授業」で名曲を鑑賞したり，合唱や合奏で自らが演奏する機会も多いため，大学で切磋琢磨して技術を磨いて芸術音楽を学んだ経験は，教える立場になった時には大変役立つと考えられます。

音楽はもともと言葉にしにくい分野であるため，日本音楽表現学会では演奏法などに関してはピアノを前に，あるいは楽器を持ち込んで演奏しながら研究発表できるところが魅力であり，他の学会とは大きく異なるところです。最近では，他学会でも文献研究と演奏実践を結びつけた研究も「研究」として認めるようになりつつあります。「音楽研究」は，学術的な研究と演奏実践が融合し，活気が出てきたように感じています。

6 日本赤ちゃん学会第 19 回学術集会参加報告

坂井　康子（甲南女子大学）

2019 年 7 月 6-7 日に，聖心女子大学において日本赤ちゃん学会第 19 回大会が行われた。大会テーマは，「赤ちゃん学でむすぶ・ひらく―学際性を問い直す―」「ヒトのはじまりである赤ちゃんの謎に科学的に迫りながら，ひとりひとりかけがえのない存在である赤ちゃんの健やかで幸せな育ちを支える見方・考え方を探求する総合的な学問としての赤ちゃん学の構築をめざす」という今川恭子大会長による大会挨拶にある通り，科学的な論拠を分かり易く示した発表･シンポジウム等が行われ，400 名近い参加者によって熱心に意見交流がなされた。

１日目のプログラムのうち，「リズムの同期･同調と音楽」（企画：丸山慎氏（駒沢女子大学））では，藤井進也氏（慶応義塾大学）他から興味深い研究が示された。音楽性，リズム同調，脳活動，身体運動等とそれらの関連について内外の研究が紹介され，指定討論者の工藤和俊氏（東京大学大学院）が，皮膚の感覚としての音の知覚，身体性などをあげて討論を整理され，議論をさらに進展させた。

２日目の「乳幼児特有の認識世界」（企画：岸本健氏（聖心女子大学））では，森口佑介氏（京都大学）らが乳幼児の世界を，空想，スケール・エラー，視覚などの切り口で説明され，未分化で生得と経

験の入り混じった乳幼児期の研究の難しさと面白さを伝えるシンポジウムとなった。

その他，ポスターセッション 57 件，ラウンドテーブル 3 件も同時に行われた。

7 Society for Education, Music and Psychology（SEMPRE）秋季学会案内

奥　　忍（関西外国語大学）

音楽の知覚認知に関するイギリスの学会の案内が届いた。この学会は音楽教育にも傾斜しており，ISME のメンバーでもある。開催地はローマ時代の遺構で有名なバースであり，温泉好きの我々日本人には異文化に対する興味を刺激する。以下に要点を箇条書にして案内する。

期　日：2019 年 11 月 7 日～ 8 日

会　場：Bath Apa University (Newton Park, Newton St Loe, Bath BA2 9BN)（世界遺産バース市内）

分　野：音楽教育・心理学

テーマ：演奏表現，コミュニケーションと学習

目　的：演奏者はどのようにコミュニケーションを取って，演奏を行うのか，そしてそのような技術はどのように身に付けるのかという問題を中心に，演奏表現についての最新の研究を集め，論議し，また研究者同士の交流を促す。

ゲスト：Dr Renee Timmers, University of Sheffield

音楽学と心理学をバックグラウンドに持つ音楽心理学者で，表現豊かな演奏とは何か，演奏者間のコミュニケーションはどのように成り立つのかということについて実験心理学の手法を中心に研究。音楽と感情，音楽認知の研究で数々の著作あり。

Prof. Amanda Bayley, Bath Spa University

様々な音楽文化のアンサンブル演奏を中心に研究。トルコ音楽について異文化音楽の習得研究の他，日本の箏曲学習の体験もある。

内　容：7 日：Study Day（修士・博士課程の学生向け）

参加者の研究発表

ゲストのワークショップ

8 日：参加者のポスター・口頭発表

詳　細：https://www.bathspa.ac.uk/news-and-events/events/sempre-autumn-conference/

4　会員の声

① スクーリングで音楽好きの教員を輩出したい

高見　仁志（佛教大学）

【はじめに】

通信教育とは文字通り「通信」であるため，当然ながら学生達は普段，テキストで自主学習に励み，ネット上でレポートや試験に取り組んでいます。ただし，音楽科等の実技を伴う教科などでは，テキストのみの学習には限界があるため，スクーリングという通学形式の授業が行われます。ここでは私が勤務している佛教大学の通信教育課程スクーリングの音楽授業について，お話ししましょう。

【3 日間だけの学生とのご縁を大切にしたい：スクーリング音楽授業】

「3 日間だけの学生とのご縁を大切にしたい」。私はそう思いながら，主として，音楽科教育法という小学校教員免許科目の授業をしています。学生たちは社会人の方も多いのですが本当に熱心で，小学校教師への夢の大きさにこちらが圧倒されるくらいです。また，いつもは一人学習でパワーを蓄積されておられるのか，スクーリングのときはそれが一気に爆発して合宿のような，良質なチームワークが生まれます。これはまさに，学生たちの将来にある「職員室での同僚性」の源泉かもしれません。今年からは，博多会場でもスクーリングを行うようになり，学びの輪が広がってさらに多くのご縁を頂いています。

【取得可能な教員免許】

佛教大学通信教育課程では，教員免許状は，幼稚園，小学校，中学校（「社会」「宗教」「国語」「中国語」「英語」「数学」），高等学校（「地理歴史」「公民」「宗教」「国語」「書道」「中国語」「英語」「数学」「情報」「福祉」），特別支援学校，の 19 種類が取得可能です。その中で，音楽関連科目は幼稚園，小学校に設定されていて，私はその中でも，主として小学校の音楽科教育法を担当しています。

【音楽が不得意な方にも音楽好きの子どもを育てて頂きたい：わらべうた遊び】

音楽の高等学校・中学校免許を取得しているが，小学校免許は持っていないので取りたい，というような音楽が得意な方から，音楽は何十年とやっていないというような苦手な方まで，受講生は様々です。特に「苦手」だとおっしゃる受講生の割合は高く，子ども時代の音楽授業が楽しくなかった，と語る方もおられます。

そのような中で，少しでも音楽に親しんで頂くため，小学校学習指導要領の内容にも大きく関わる「わらべうた」を中心に授業をすすめています。わらべうたを教材とした授業づくりについて，音楽科やそれ以外の教科にも通じる観点（「教育内容」「教材」「教授行為」）から演習を展開します。「あんたがたどこさ」の歌遊びでは，どの学生も笑顔で高らかに歌いながらお手合わせを楽しまれます。苦手意識が消えようとする瞬間です。音楽が不得意な方にも音楽好きの子どもを育てて頂きたい，この一心で私も楽しみながら皆さんと笑顔でお手合わせをしています。

―皆さんで楽しむスクーリング音楽授業。次回はどんなドラマが待っているでしょう。

【写真】「わらべうた」を楽しむ受講生

② 音楽教育に即興を取り入れたい

遠藤　尚美（ピアニスト）

私は元々クラシック音楽を勉強してきましたが，ポップスやジャズにも傾倒していたので，アメリカに留学し本格的にジャズを学びボストンやニューヨークで演奏活動をしてきました。帰国後は大学や専門学校の非常勤講師などをしながらポピュラーやジャズの入門書の執筆などをしてこれまでに多くの著書を出版しております。現在もジャズピアニストとしてコンサートやライブなどに力を注いでおりますが，一方，プロの音楽家やプロを目指す方，留学する方にジャズピアノを教えております。

そこで坪能先生にお会いし，音楽教育に力を注いでいらっしゃること，私の実績に対し評価してくださることで，私も先生の研究なさってることに共感し，子供たちに即興の楽しさを味わって欲しいと思うようになりました。坪能先生が主催されるワークショップに参加させていただいたり，私のセミナーを設けてくださったりと私自身も勉強させていただくことが多く，音楽教育に関わる多くの先生がたの活動を垣間見ることとなりました。そのうちに学会に参加して研究テーマや研究発表などに携わることになれば本望と思うようになりました。

ジャズは難しいものと今でも思われてます。そもそも昔はジャズなんて習うものではなく独学で習得するものでした。しかし，今は需要もありアカデミックにいかにわかりやすく解説するかというところに焦点を当て，自由ではありますが最低限の決まりを作り小さい頃から皆さんに親しんでもらいたいと思っております。学会に入会させていただき，光栄に存じます。音楽教育者としては若輩ながら，皆様からご指導ご鞭撻を賜りましたら幸いです。

【写真】ジャズピアノコードのワークショップ・セミナー

③ 日本音楽教育学会入会に際して

伊東　陽（あきら）（沖縄県立芸術大学）

この度，日本音楽教育学会に入会させていただきました，ピアノの伊東陽（あきら）と申します。宮城県仙台市出身で5年間のドイツ留学後，現在演奏活動，幼児から70代まで幅広い年齢層へのピアノ指導の他，沖縄県立芸術大学で教鞭をとっております。

幼少期からドイツ留学まで私の音楽生活の中心は自分自身のピアノの演奏技術を磨くことでした。楽譜に書いてある音符をひたすら追い，自分が満足する演奏を求める日々でした。

しかし指導する立場になった時，音楽と人との関わりには千差万別で，ピアノを習いたいと言う人の目的もそれぞれだということを知りました。また大学の教職課程の必須科目である副科ピアノの学生たちは楽譜に忠実にピアノを弾くことよりも彼らが教員になった時，伴奏や弾き歌いの技術など臨機応変に教育現場で対応できるピアノの演奏技術の方が大切だと考えるようになりました。

どうしても自分が受けてきた教育をもとに指導にあたってきましたが，諸先輩方からご指導いただき，さらに幅広い見聞を広め，音楽を学びたいという人々のさまざまなニーズに応えられるようになりたいと思い，学会へ入会させていただくことにしました。

今後私なりに演奏活動と研究両方からアプローチを続け，日本の音楽活動，音楽教育がさらに発展していけるよう精進したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

④ 会員の新刊・近刊等紹介

★ B. スティーゲ，L. E. オーロ著，杉田 政夫監訳，伊藤 孝子他訳『コミュニティ音楽療法への招待』
風間書房　2019/6/28　A5・506 頁　ISBN978-4-7599-2287-5［本体 3,500 円＋税］

国際的リーダー，スティーゲによるコミュニティ音楽療法の理論と実践の詳述である。社会正義に立脚した協働的ミュージッキングによる健康，インクルージョン，社会変革等への積極関与が精緻に描出される。

★伊野 義博著『日本一分かりやすい！伝統音楽の基礎知識＆活動アイディア
―にほんごは おんがくのすてきな おかあさん―（音楽科授業サポート BOOKS)』
明治図書　2019/4/19　A5・102 頁　ISBN978-4-18-379613-4［本体 1,600 ＋税］

学校の授業で「日本の伝統音楽を楽しく教えたい！でも，伝統音楽はよくわからないし，どうしたらいいの！」といった先生に向けた一冊。日本語で生活している身体に染み込んでいる伝統的な音楽性に気付き，授業に生かすことを提案している。たくさんの活動を楽しみながら伝統音楽に対する理解を深め，授業実践につなげていくことができる。

★髙倉 弘光編著，音楽授業ラボラトリー研究会著
『音楽授業の「見方・考え方」 成功の指導スキル＆題材アイデア（音楽科授業サポート BOOKS)』
明治図書　2019/2/25　A5・136 頁　ISBN978-4-18-278213-8［本体 2,000 円＋税］

新学習指導要領のキーワードの一つに，音楽的な「見方･考え方」がある。本書では，実践者たちに各々が考える「見方・考え方」について語ってもらい，実践の具体も示していただいている。

★新しい音楽教育を考える会編『音楽の授業づくりジャーナル』第２号
Web ジャーナル　https://www.icme.jp

新しい音楽教育を考える会（代表：坪能由紀子）による web ジャーナル第２号。日本音楽教育学会プロジェクト研究「学校と社会を結ぶ音楽教育」で提案された，TAS モデルをもとにした実践の掲載とともに，T (Teacher)，A (Adviser)，S (Supporter) 3 者の協働による新たな授業の展開を紹介している。

―…―

「ニュースレターは会員のホットな情報交換の場」の方針の下，この頁ではみなさまからの投稿をお待ちします。書籍の他，CD，DVD などのリリースもお寄せ下さい。書誌情報，基本的な音源情報に加えて「である調」90 字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス ☞（半角で）ｏｎｋｙｏｉｋｕ@ｒｅｍｕｓ．ｄｔｉ．ｎｅ．ｊｐ

5　報　　告

① 2019 年度第 2 回常任理事会報告について

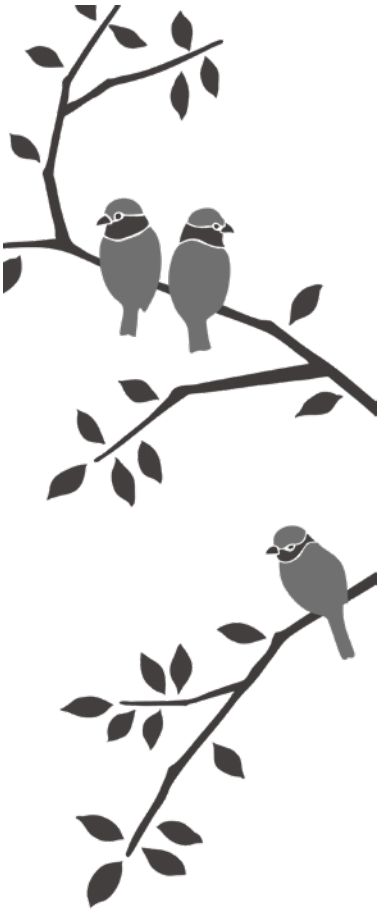
2019 年度第 2 回常任理事会は, 8 月 4 日(日)14 時から, 立教大学において開催されます。ニュースレターの原稿締切に間に合わない日程のため，常任理事会報告は日本音楽教育学会の Website にて，8 月下旬に公開致します。そちらをぜひご覧ください。

ここでは新入会員及び退会者についてのみ掲載いたします。

新入会員及び退会者について（今田）

個人情報に付き削除しています。

2019 年 7 月 29 日現在	
正 会 員	1568 名
学生会員	3 名
名誉会員	2 名
特別会員	3 名



6　事務局より

事務局長　今田　匡彦

1）第 50 回大会（東京大会）について

web 上での事前参加申込期限は 2019 年 9 月 19 日(木)18:00, 入金期限は 9 月 27 日(金)です。期日までに支払いが確認できない場合，登録取り消しとなりますので，〈当日申込受付〉で改めて手続き，支払いを行ってください。website は以下の通りです： https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/50ongaku_tokyo/ 総会の出欠については同封のハガキにご記入の上，10 月 1 日（火）必着でお知らせ下さい。 総会に欠席される方は，必ず委任状に必要事項をご記入下さい。

2）大会参加費について

正会員・特別会員参加費：￥4,000（当日：￥4,500）

情報交換会費：￥5,000，弁当（お茶付き）：￥1,200

＊情報交換会費，弁当は website にて事前にお申し込みください。

3）学会誌バックナンバー販売について

昨年度同様，特別価格で販売中です。詳細は学会 website をご参照下さい。

4）会員情報管理システムが 9 月 1 日から変更になります。

これまでも会員の皆様には正確なメールアドレスの登録をお願いして参りましたが，新システムでは会員それぞれがご自分のメールアドレスを正しく登録していることが必須になります。同封のチラシをご覧の上，ご不明の点は事務局にお問い合わせください。

【編集後記】

随分と長く感じられた梅雨が明けたかと思えば，九州から東北の各地で猛暑日を観測しています。場所にもよりますが，梅雨明けは平年比で 1 週間前後遅かっただけとのこと。それでも長く感じられたのは，昨年の梅雨明けがかなり早かったためのようです。

本号が皆様のお手元に届くのは，記念すべき 50 回大会まで 2 ヶ月を切った頃でしょうか。多くの皆様とともに思考し議論することで，音楽教育学の次の 50 年を見通す大会になるのではないかと期待を膨らませております。毎年 8 月発行のニュースレターに掲載している第 2 回常任理事会の報告は, 開催日の都合で学会ウェブサイトにて公開の予定です。それに伴い変則的な紙面構成になっておりますことをご了承ください。ご執筆いただいた皆様やご協力くださいました皆様には，この場をお借りして感謝申し上げます。

広報委員一同, 充実した紙面になるよう励んで参りますので, 多くのご寄稿をお待ちしております。

（塚原　健太）

投稿先アドレス☞（半角で）onkyoiku@remus.dti.ne.jp

【日本音楽教育学会事務局】
所 在 地：〒 184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206
TEL & FAX：042-381-3562　E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp
私 書 箱：〒 184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26　＊郵便物は私書箱へ
開局日時：月・水・木　9:00 ～ 15:00
事務局員：氏名を削除しています。